



年頭のご挨拶

一般社団法人埼玉県LPガス協会

会長 川本 武彦

令和4年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には、日頃より埼玉県LPガス協会の活動にご理解とご協力をいただくとともに、新型コロナウイルスの感染予防対策を講じつつ、保安の確保と継続的な供給に取り組んでいただいていることに厚く感謝を申し上げます。

さて、LPガスを取り巻く事業環境は年々厳しさを増しております。人口減少・少子高齢化、競合エネルギーとの競争に加え、産油国の減産や為替レートの円安に伴う輸入価格の高騰、半導体部品の世界的な不足によるガス機器の納期遅延など新型コロナウイルスの影響がいたるところで生じております。

更には2050年までにCO₂の排出を実質ゼロにすることを目指すカーボンニュートラル問題などこの1、2年で大きな転換期を迎えました。

低炭素化・脱炭素化は化石燃料を扱うエネルギー産業には大きな壁ではありますが避けては通れない課題であります。LPガス業界でも対策が始まり、元売会社はカーボンニュートラルLPガスの製造技術開発を進め、社会実装に繋げて行くことを目的とした「日本グリーンLPガス推進協議会」を設立いたしました。

全国LPガス協会では「LPガスカーボンニュートラル対応検討会」を発足させ、国や関係事業者から様々な情報を収集し販売事業者が取り組むべき対応を検討しております。私もこの検討会に委員として参加し近日中に中間報告が発表されることとなっております。

かつて日本の経済成長を長きにわたり支えてきた石炭は、今日では悪者扱いにされております。LPガスがカーボンニュートラルの流れの中で、石炭が受けているような逆風に晒されることが無いよう、クリーンで環境に優しく利便性が高いエネルギーであることを、今まで以上に力強く発信することが大切だと思っております。

LPガスは産業や生活に欠かせないエネルギーです。事故の撲滅・保安体制の一層の強化、安定供給・料金の透明化に取り組み、アフターコロナ時代においても会員が一丸となり、LPガスの「青い炎」を灯し続けていきたいと願っております。

結びにあたり、会員会社のますますのご発展、代表者の皆様のご健勝とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。